

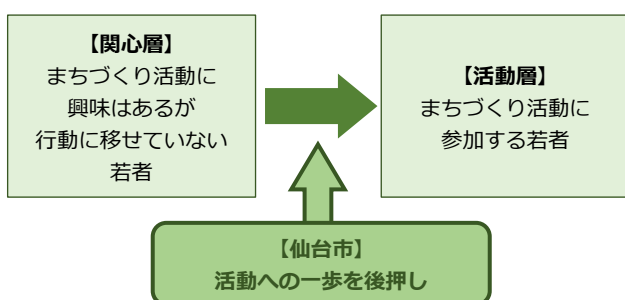
# 仙台市若者のまちづくり活動に関する意識調査 報告書（概要）

若者のさまざまなチャレンジを応援し、若い力を生かしたまちづくりを推し進めていくために、アンケート調査・ワークショップ・関係団体ヒアリングを実施し、若い世代の方々<sup>\*</sup>のまちづくり活動に対する意識やご意見を調査した。

※ 主な調査対象…18歳から39歳の方で、仙台市内にお住まいの方または通勤・通学している方

## 1. 調査結果の総括

本市では、将来の仙台のまちづくりの担い手となる若者の社会参加を促進するために、様々な事業を実施しているが、活動への参加や活動の継続について、更なる支援・後押しの必要性が課題として見えてきた。



そこで、今回の調査では、まちづくりに興味関心はあるものの、まだ活動にまで至っていない、活動経験がない若者をいかに活動へと後押ししていくか、そのポイントを探ることとした。

▶活動へと後押しするポイント

**楽しさ × つながり × 成長 × 貢献**



今回の調査から、若者が活動に参加する場合に期待すること、言い換えれば参加する動機は、地域や社会等の役に立ちたい、「貢献」したいという想いととも、活動に参加する中で「楽しさ」や「人とつながれる」、「自分の成長」を求めていることがうかがえた。活動を始める動機としてだけでなく、活動を継続していくためにも重要だと考えられる。

▶活動へと後押しするポイント

**分からない不安の払拭**

若者が活動に参加するうえでの不安や妨げについて、アンケート調査で多かった回答は以下の通り。

「活動時間の長さ・頻度等の時間的な負担」  
「活動事例や団体等の情報がわからない」  
「自分に何ができるのかわからない」  
「自分の他の予定が立てづらくなる」

これらのハードルを下げるためには、若者にとって自分が活動に参加した姿を具体的に想像できることが重要である。

また、気負わずに気軽に体験できることも、若者の活動への後押しにつながる。

▶活動へと後押しするポイント

**情報の届け方**

若者は、情報収集及び情報発信にSNSを積極的に用いている。事業内容をイメージしやすい動画や画像等を交えながら広報を行う手段としてSNSは効果的・効率的なツールである。

また、実際に活動している人から話を聞く機会や、知人や学校・職場からの勧め等のきっかけがあると、一歩を踏み出すことにつながりやすい。

## ◆ ポイントのまとめ

【期待感・動機を喚起】  
楽しい 人とのつながり  
自分の成長 貢献

【わからない不安を払拭】  
活動内容の具体的イメージ  
要する時間の明示  
手軽さ・気軽さ

【情報の届け方】  
SNS等の活用 活動者との交流  
世代に合わせた情報発信

## 2. アンケート調査

調査期間： 令和4年8月1日（月曜日）から31日（水曜日）まで

回答方法： みやぎ電子申請サービスを用いたWebアンケート

回答数： 1,092人

周知方法： 住民基本台帳から無作為抽出した3,000人に案内を送付したほか、市ホームページやチラシ等で広く周知するとともに、大学や市民活動団体等に周知協力を依頼した。

### 【まちづくり活動への参加に期待すること】

選択肢	活動層 (n=121)	経験層 (n=109)	関心層 (n=614)
① 身近な地域の役に立てる	66.9%	62.4%	49.3%
② 社会に貢献できる	60.3%	51.4%	52.1%
③ 人とのつながりを増やせる	70.2%	58.7%	45.3%
④ 困っている人や誰かの力になれる	54.5%	49.5%	47.2%
⑤ 自分の成長やキャリアアップにつながる	50.4%	45.9%	40.7%
⑥ 楽しい時間を過ごせる	48.8%	33.9%	31.6%
⑦ 自分の知識やスキルが生かせる	47.9%	37.6%	29.3%
⑧ やりたいことが見つかる	29.8%	22.0%	23.1%
⑨ 余暇時間を有意義に使える	22.3%	24.8%	18.6%
⑩ 特別な知識やスキルなしでも参加できる	23.1%	18.3%	18.7%
⑪ 自分の問題の解決につながる	25.6%	16.5%	16.6%
⑫ ソーシャルビジネスの勉強になる	22.3%	11.9%	15.1%
⑬ 進学、就職などで有利になる	15.7%	14.7%	9.9%
⑭ わからない	0.0%	0.9%	2.0%
⑮ その他	1.7%	1.8%	1.3%

他者への「貢献」に関する回答（①②④）のほか、「③ 人とのつながりを増やせる」、「⑤ 自分の成長やキャリアアップにつながる」、「⑥ 楽しい時間を過ごせる」との回答が多い。

### 【活動に参加することへの不安、参加の妨げ】

選択肢	活動層 (n=121)	経験層 (n=109)	関心層 (n=614)
① 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担	52.1%	57.8%	66.3%
② 活動事例や団体などの情報がわからない	26.4%	40.4%	50.0%
③ 自分に何ができるかわからない	26.4%	32.1%	49.0%
④ 自分の他の予定が立てづらくなる	27.3%	27.5%	40.6%
⑤ 先に活動している人の輪に入れるか不安	25.6%	42.2%	39.6%
⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響	36.4%	29.4%	33.2%
⑦ 一緒に参加する仲間がいらない	24.8%	33.0%	31.6%
⑧ いつまで参加し続けられるかわからない	34.7%	26.6%	26.9%
⑨ 特別な知識やスキルがないと参加しづらい	12.4%	15.6%	18.2%
⑩ 特に不安や妨げになることはない	6.6%	3.7%	1.6%
⑪ わからない	1.7%	1.8%	1.6%
⑫ その他	5.0%	4.6%	3.6%

「① 活動時間の長さ・頻度などの時間的な負担」との回答が最も多い。

活動経験がない関心層では、「② 活動事例や団体などの情報がわからない」、「③ 自分に何ができるかわからない」、「④ 自分の他の予定が立てづらくなる」等の回答が多く、活動経験がないためにイメージができないことで、活動に参加することへの不安等を感じていると考えられる。

### 【活動に参加する若者が増えるために重要なこと】

選択肢	活動層 (n=121)	経験層 (n=109)	関心層 (n=614)
① 事前申込なしで短時間でも体験できる機会	43.8%	55.0%	60.3%
② 交通費や会場使用料などの経費の支援	50.4%	50.5%	46.4%
③ 個人で参加できる機会	50.4%	45.9%	51.1%
④ 活動中の人や興味のある人たちが集う交流の機会	61.2%	47.7%	44.1%
⑤ 行政や地域などから課題や一緒に取り組みたいことなどが示される	43.0%	32.1%	30.6%
⑥ 活動のアドバイスが受けられること	21.5%	17.4%	29.2%
⑦ 自分の知識やスキルが生かせること	28.9%	21.1%	21.0%
⑧ 打合せなどができるフリースペース	28.9%	18.3%	12.7%
⑨ 活動が表彰される仕組み	21.5%	8.3%	9.3%
⑩ わからない	1.7%	0.9%	2.1%
⑪ その他	15.7%	10.1%	7.0%

関心層にとっては、「① 事前申込なしで短時間でも体験できる機会」との回答が最も多く、次いで「③ 個人で参加できる機会」との回答が続き、気軽に始められる活動の入り口を求めていることが分かった。

活動層にとっては、「④ 活動中の人や興味のある人たちが集う交流の機会」が重要であるとの回答が最も多かった。人とのつながりや交流の機会があることが活動継続のポイントとなる可能性がある。

### 3. ワークショップ

名称： U39まち活トーク「マチダさんのまち活デビュー」  
 実施日時： 令和4年11月30日（水曜日）18時30分から20時  
 会場： 青葉の風テラス（地下鉄東西線 国際センター駅2階）  
 参加人数： 25人  
 実施方法： グループディスカッション  
 周知方法： 市ホームページやSNS等で広く周知するとともに、大学や市民活動団体等に周知協力を依頼した。



若者たちがまちづくり活動に対して抱いているイメージや考え方を把握するために、まちづくり活動を始める若者を主人公とした物語を参加者が話し合いながら創作した。

#### 【プロセスマッピング】

各グループが創作した物語から見られた傾向を基に、まちづくり活動に至るまでのプロセスをマッピングした。

#### 【ワークショップの流れ】

##### (1) 全体説明

- ① テーマ説明等（10分）
  - ・ まちづくり活動の定義の確認
  - ・ 本日のグループワークの目標を確認
  - ・ 自己紹介とグループ内の役割決め
  - ・ 主人公の大まかな設定（名前・年齢・職業）が書かれたカードをグループ毎に引いてもらう
- ② アイスブレイク（5分）
  - ・ 主人公の絵を描く



〔参加者が描いた絵（一部）〕

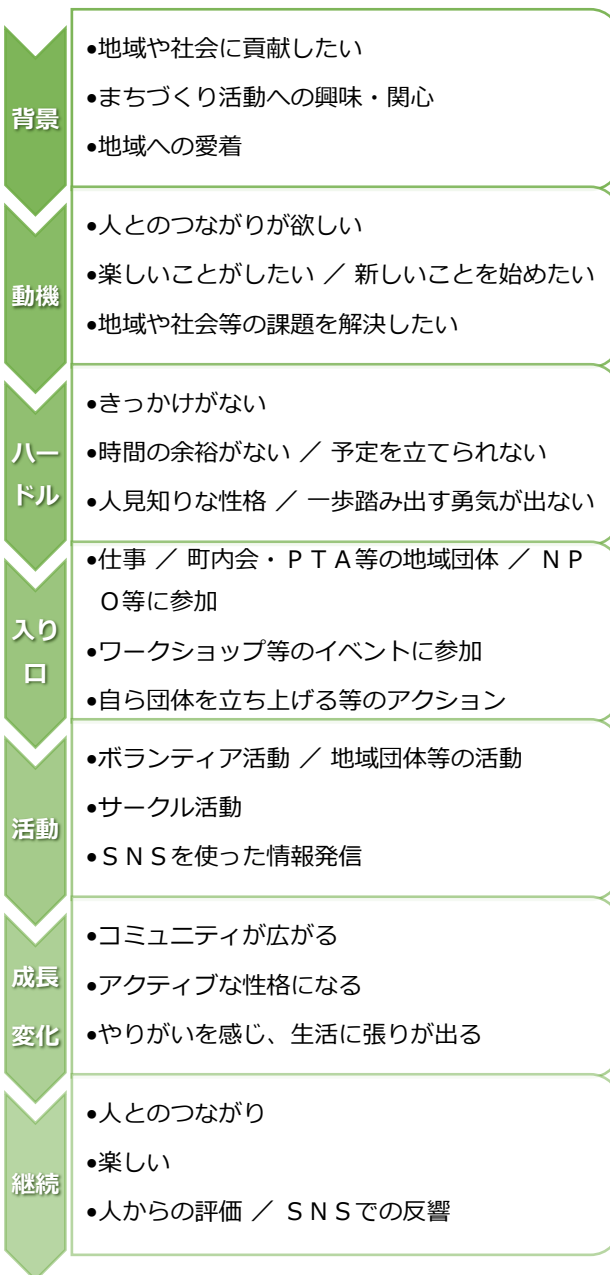
##### (2) グループトーク（30分）

- ・ 以下の内容を話し合いながら、物語を作る  
 主人公の設定（性格・職業・家族等）  
 まちづくり活動をしていない理由  
 まちづくり活動を始めたきっかけ・出来事  
 どんな活動をしたか  
 活動中の様子  
 活動を始めた後の変化 等

##### (3) まとめ（10分）

##### (4) 発表（30分）

- ・ 描いてもらった主人公の絵（上図）をスライドで映した状態でグループ毎に発表する。



## 4. 関係団体ヒアリング

調査内容： アンケート調査を踏まえ、実際に多くの若者と共に活動している2つの団体に対して、若者が参加・活動しやすい環境づくりや工夫していること等について、ヒアリングを行った。

ヒアリング団体： 外国人の子ども・サポートの会 / 一般社団法人 ONE TOHOKU HUB

### ◆ 楽しさ × つながり × 成長 × 貢献

(外国人の子ども・サポートの会)

- ・ サポーター会員（学生等）同士が活動状況を共有しアドバイスし合えるなど、サポーター会員間の横のつながりは重要。活動を通じてサポーター会員同士がつながることができ、同じ大学であれば大学にいる時に情報交換ができるなど、団体の活動の外での関係性もできると思う。

(一般社団法人 ONE TOHOKU HUB)

- ・ 「社会に貢献している」と実感することや、目に見える形に残る工夫が必要である。ただし、貢献の面を強調し過ぎると、荷が重くなり過ぎて敬遠されることもあるので、バランスが必要。
- ・ 学生にとって、まちづくり活動を通して、普段あまり接しない社会人と関われる機会は、自分のキャリアを広げるための有効な手段となっている。また、社会人にとっても、学生から多くの刺激をもらい、お互いにWIN-WINになっているケースが多い。
- ・ 初めての人でも参加しやすいように、「食」・「非日常」など、イベントの入口は「楽しい」・「ワクワク」できるコンテンツにするように意識している。例)「芋煮×まちづくり」

### ◆ わからない不安の払拭

(外国人の子ども・サポートの会)

- ・ サポーター会員として参加を希望する方には、はじめに丁寧なヒアリングを実施し、その方ができることに合わせて事務局がしっかりとコーディネートをしている。
- ・ チームメンバーには、同じ大学の学生を入れて、団体での活動の外でもコミュニケーションがとりやすいように工夫している。
- ・ サポーター会員同士の情報共有の場を設けて

いる。話すテーマを決めて、困っていることを共有し、課題や今後の活動で気を付けるポイントなどを明確にする機会としており、事務局も助言をしながら活動をサポートしている。

(一般社団法人 ONE TOHOKU HUB)

- ・ ライフイベント（結婚・育児）や仕事の業務量によって、参加可能な時間・頻度は限定されてくるので、柔軟な対応が必要である。
- ・ いつでも自由に参加できるオープンな形は重要なので、意識している。一方で、まちづくり活動を実行していくためには、コアできちんとまちづくりに関われる人材を配置することも重要である。
- ・ 参加のハードルを下げるという意味では、活動頻度を月1回程度も許容していく必要がある。

### ◆ 情報の届け方

(外国人の子ども・サポートの会)

- ・ どなたでも気軽に参加できるよう、公開で、定例の勉強会、研修会等を実施している。
- ・ アルバイトやサークルで当会のサポーター会員から活動の話聞いて、「自分も参加したくなった」という新しい方が活動に来てくれることがある。

(一般社団法人 ONE TOHOKU HUB)

- ・ 2時間程度のイベントを事前申込なしで開催できると、参加者側も気軽に参加しやすい。
- ・ まちづくりに関する大学、まちづくりに興味関心のある教授と組んで、学生を巻き込みながら活動していくことが重要だと思う。
- ・ 地道に若者一人ひとりとの関係性を構築していく事が重要であり、しっかりと関係性が構築できれば、様々なまちづくりイベントに参加してくれるようになる。

令和5年3月 **仙台市市民局市民協働推進課** (022)214-1089

報告書の全体は仙台市ホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.sendai.jp/kyodosuishin/kurashi/manabu/np/shimin/oshirase/r4chosa.html>

